

人間のよそおいを考究する

化粧ファッション学専攻

MASTER OF ARTS IN BEAUTY & FASHION STUDIES

男女共学

社会人対応

昼夜開講

2027

Osaka Shoin
Women's University
Graduate School of Human Sciences



化粧研究、ファッション研究の高度化をめざす先駆的大学院
モノづくり、ひとづくり、地域づくりを重視する実践型大学院
もういちど学びたい人、研究を深めたい人のための社会人対応大学院



大阪樟蔭女子大学 大学院人間科学研究科 修士課程

化粧ファッション学の研究をリードする充実した教授陣

[化粧ファッション学専攻研究指導教員の紹介]

■ファッション学分野



谷 明日香 教授

京都女子大学大学院家政学研究科修了。博士(学術)。専門は被服材料学・被服衛生学。衣服を通じた健康・快適・安全の向上をめざし、素材による着心地や快適性を科学的に研究。機能性衣服の研究・教育を進めるとともに、社会課題に対応した実践的指導や衣服廃棄問題に関するアップサイクル研究を推進している。

■担当科目:化粧ファッション学特殊講義1、化粧ファッション学特殊講義2、ファッションと科学演習1、化粧ファッション学研究

■ファッション学分野



杉田 慶子 教授

ファッション学分野のおもに衣服構成学の研究領域に関心をもつ学生の論文指導を行う。衣服のデザインや制作技術といったモノづくりの側面だけでなく、生活・文化等と関連付けながら指導する。歴史的衣服の保存修復元もテーマの一つである。

■担当科目:人間科学研究方法論、化粧ファッション学特殊講義1、化粧ファッション学特殊講義2、ファッションと技術演習、ファッション特論、化粧ファッション学研究

■ファッション学分野



水野 夏子 准教授

奈良女子大学大学院人間文化研究科修了。博士(学術)。専門は服飾史、服飾美学。主な研究対象は中国漢代の服飾。生活文化史の不可欠な要素であり服飾美の価値観の変遷の様相などを追求する服飾史の視点から、人間の考えと服飾(よそおい)の相関に焦点をあてた研究指導を行う。国際服飾学会特任理事、日本家政学会代議員等。

■担当科目:化粧ファッション学特殊講義1、化粧ファッション学特殊講義2、ファッションと美学演習、化粧ファッション学研究

■化粧デザイン学分野



岩永 哲朗 教授

大手化粧品会社を経て、2023年4月より現職。博士(工学)。専門は化粧品科学、コロイド、界面化学。界面活性剤の溶液物性、そして、界面活性剤の機能を利用した化粧品製剤化技術に関する研究を主に行っている。

■担当科目:化粧ファッション学特殊講義1、化粧ファッション学特殊講義2、化粧デザインと科学演習1、化粧ファッション学研究

■化粧デザイン学分野



高田 定樹 教授

大手化粧品会社を経て、2013年4月より現職。博士(学術)。日本における化粧品科学・化粧品開発の代表的な研究者のひとりで各種学会賞を受賞、多数の特許をもつ。専門は化粧品科学・化粧品開発、化粧の生理・心理効果、化粧のマーケティング、ソーシャルビューティーなど。

■担当科目:人間科学研究方法論、化粧ファッション学特殊講義1、化粧ファッション学特殊講義2、化粧デザインと科学演習2、化粧ファッション学研究

■化粧デザイン学分野



松下 戦具 教授

学位取得後、York University Center for Vision Researchや立命館R-GIROでの研究員、大阪大学人間科学研究科助教、本学准教授などを経て2023年より現職。博士(人間科学)。専門は心理学。顔や化粧の知覚・認知、ファッションとパーソナリティとの関連や、整形手術に対する態度などを幅広く研究。

■担当科目:人間科学研究方法論、化粧ファッション学特殊講義1、化粧ファッション学特殊講義2、ウェルネス特論、化粧ファッション学研究

■身体表象学分野



川野 佐江子 教授

丸善株式会社、財団法人計量計画研究所を経て、本学化粧ファッション学科教授。博士(比較文学)。専門は身体論、身体表象論。スーツ、プロレス、相撲など男性身体の研究に卓越。特に、近代社会において男性身体の表象がどのように消費されてきたのかについての研究を深め、NHKアーカイブス学術利用研究などで活躍。

■担当科目:人間科学研究方法論、化粧ファッション学特殊講義1、化粧ファッション学特殊講義2、身体表象と社会演習、化粧ファッション学研究

■身体表象学分野



森 優子 教授

筑波大学大学院芸術学研究科修了。博士(デザイン)。東京家政学院筑波女子大学講師などを経て現職。専門はビジュアルコミュニケーションデザイン。ファッションや化粧などのデザインや表象に関する生活、産業、環境と芸術・デザインの関わりについて、実践活動も取り入れた指導を行う。

■担当科目:化粧ファッション学特殊講義1、化粧ファッション学特殊講義2、デザイン特論、化粧ファッション学研究

■ビジネス関連分野



岸本 泰蔵 教授

元・株式会社ワコール人間科学研究開発センター研究統括研究顧問。ファッションビジネスの要素が凝縮されたインナーウェア業界を中心に企業研究・商品研究を行い、社会環境や生活者のライフスタイルの変化に対応してビジネス分野で今何が課題で、未来に向けた何をしていくべきかを自ら考える指導を行う。

■担当科目:化粧ファッション学特殊講義1、化粧ファッション学特殊講義2、化粧ファッションビジネス論、化粧ファッション学研究



※2026年度4月時点での在籍教員です。

日本で唯一の専攻「化粧ファッション学専攻」へようこそ



専攻長
岩永 哲朗

2013年4月に化粧ファッション学専攻という日本で唯一の専攻が開設されました。その間の現代社会の動き、とりわけAIを中心とする情報化・デジタル化の進展には目を見張るものがありますが、人間のよそおい（装い・粧い）の営みは依然絶えることがありません。また近年はDI&EやSDGsなどの概念が社会を覆い、その中ではよそおいの営みも新たな課題を発見していると言えるでしょう。そうした今、本専攻設立にあたり北山晴一初代専攻長の呼びかけを再掲します。化粧ファッション学専攻を引き継ぐ者として、ここに示された理念と熱意を継承して行きたいと思います。

■ 学問としての化粧ファッション学の可能性

化粧ファッション学専攻は、化粧やファッションなど私たちの身体のよそおいに関する事柄、やや学問的な用語を使えば、身体之美と身体を表象に関わる現象と課題を総合的に研究することを目的とする大学院です。しかしながら、このような総合的な視点から化粧ファッション学を考えた大学院は、これまで、どこにも存在していませんでした。本学大学院の化粧ファッション学専攻がはじめてです。

このパンフレットの「化粧ファッション学の問題系の広がり」をご覧ください。一目瞭然なのですが、学問としての化粧ファッション学の可能性は、通常私たちが化粧やファッションといった用語で想像する範囲をはるかに超えて広がっています。化粧品やファッション作品といったモノづくりの研究開発からはじまって、よそおい行為のもつ社会的意味、美を求める私たちの欲望のあり様、身体とこころへの影響、芸術や文化の分野での発展、さらには生きるよろこびをもたらす美の経験の大切さなど、化粧ファッション学が研究すべき対象は、いずれも私たちの人生と社会のありかたについて深く考察することへと誘うものばかりです。

■ 化粧ファッション学専攻を展開するにあたって

今改めて化粧ファッション学専攻を展開するにあたって留意したことがいくつかあります。それは、

1. 血の通った生身の対象を生身のまま研究する学問としての化粧ファッション学を打ち立てること。
2. 社会に役立つ化粧ファッション学でありたいこと、いいかえれば美の経験を大切にする化粧ファッション行為がよりよい社会の実現に結びつくような道筋を見つけないこと。そのためには昼夜開講制など社会人が学びやすい環境を整備すること。
3. 新しい分野である化粧ファッション学の研究拠点の構築と研究者の養成のために男女共学が必要だと考えたこと。

このように、化粧ファッション学専攻は、本学はじめ他大学において関連する様々な専門分野を修得してきた学生に対し研究の場を提供するだけでなく、文化アート活動の実践家や、美容教育の専門家、美容福祉を志す人々、化粧品やアパレルなど「美」に関連する職業分野に従事し活躍している多くの社会人にとっても意義のある再教育と研究の場を提供するべく設計されています。

社会に役立つ化粧ファッション学の確立をめざして、ともに研究に励んでいきましょう。

各分野の専門家が理論と実践の両面から

丁寧な教育をサポートします。【授業担当教員・兼任教員の紹介】※2026年度4月時点での在籍教員です。

授業担当教員

高木 大輔 准教授

■担当科目：化粧ファッション学特殊講義1、化粧ファッション学特殊講義2、化粧デザインと技術演習、ヘアメイク特論

本学化粧ファッション学科准教授。専門はメイクデザイン、ヘアデザイン。美容師、ヘアメイクアップデザイナーとして国内外で活動。トータルコーディネーションの視点からヘアメイクデザインを研究・実践している。

中村 圭美 准教授

■担当科目：キュレーション特論

本学化粧ファッション学科准教授。専門は現代アートとファッション、博物館展示論、草間彌生研究。公共芸術論や学芸員としての視点から、歴史的衣裳も含むファッション展示の意義について研究をしている。

兼任教員

江川 悦子 客員教授

メイクアップアーティスト。日本における特殊メイクのパイオニア的存在として、ハリウッド映画をはじめ国内外の映画、舞台、TV等で活躍している。

■担当科目：メイクアップ特論

小林 政司 講師

本学・名誉教授。学術博士。専門は被服整理学。洗浄（洗濯）・加工・染色・色彩に関する数多くの研究成果を発表している。

■担当科目：ファッションと科学演習2

堀井 謹子 講師

奈良県立医科大学第一解剖学教室講師。解剖学全般の教育に携わる。専門は脳。本能や情動を司る神経回路や精神疾患モデルの研究を行っている。

■担当科目：身体表象と解剖学演習

梅原 宏司 講師

近畿大学大学院総合文化研究科准教授。専門は文化政策。特に文化施設（劇場、音楽ホール、博物館、美術館）、文化遺産に関する政策について研究をしている。

■担当科目：ボランティア・非営利ビジネス論、パフォーマンス特論

■ 化粧ファッション学専攻に期待します



株式会社アップディメンションズ
代表取締役社長
大阪樟蔭女子大学 客員教授
江川 悦子

化粧とファッションの融合は 未来を造ります！

化粧ファッション学専攻という、インパクトのあるネーミングに思わず目を見張りました。そしてそれはインパクトのみならず、まさに時代が必要としていることそのものである、とガッテンした次第です。

私は特殊メイクをはじめる以前に、ファッション雑誌「装苑」に勤務した経験があるため、日常的にトータルコーディネーションという言葉を使っていました。文字どおり、頭のでっぺんからつま先まですべてをコーディネートしてこそファッションだからです。そのすべてを学べる化粧ファッション学専攻は時代を、業界を牽引して行くこと間違いなく信じています。さらに、化粧と特殊メイクの境界線もなくなり、ボーダレスになっていく日も近いと思います。

■略歴:「装苑」編集部勤務の後、夫の転勤で渡米。特殊メイクの魅力に目覚めハリウッドにあるJoe Blasco make-up Centerに入社。卒業後は経験を積み、帰国後、1986年に株式会社メイクアップディメンションズを設立。国内外の映画、舞台、テレビなどのメディアで幅広く活躍している。



化粧ファッション学の 人材育成に期待します。

私は、神戸ファッション美術館の学芸員の中心として、美術館の設立時より、数多くの企画展、常設展を手掛け、展示に関するほとんどの仕事を経験してきました。収蔵品の貸し出しや展示協力のために日本全国の美術館に出かけることもありま。しかし、行く先々の美術館で、もう少し化粧ファッション学を専門的に学べた方がおられたらと思うのが実感です。このたび大阪樟蔭女子大学大学院に新設される化粧ファッション学専攻は、理系と文系、そして芸術系、さらには福祉やビジネスの人材養成も視野に入れた日本ばかりでなく世界でもまれな化粧ファッション学の研究拠点になることまちがいありません。

■略歴:元・神戸ファッション美術館学芸員。設立時より、神戸ファッション美術館独自の使命を熟知し、新鮮な発想で数々の企画展を成功に導く。日本では数少ない化粧ファッション展示の専門家として指導的な役割を果たしている。

■ 化粧ファッション学の教育と研究を支える独自のサポート制度

働きながらでも学びやすい時間帯設定や、長期履修制度・奨学金制度など、意欲ある学生が、無理なくしっかりと継続学習できるよう配慮。入学から修士論文執筆、そして修了後の進路にいたるまで充実した教授陣が一人ひとりの研究生活を力強くサポートします。

■ 研究者の養成と社会人の再教育を支える諸制度

男女共学制を導入します

本専攻は、化粧学とファッション学を統一的に学ぶことのできる日本で唯一の大学院として、日本における化粧ファッション学研究の主要拠点となることを求められています。本専攻では、そのような役割を踏まえて、男女共学制を導入し、化粧ファッション学の研究と関連分野での活躍を志す男女がともに学び、研究のできる環境を整えます。

社会人の学びやすい時間割設定と昼夜開講制の実施 (大学設置基準第14条の教育方法の特例)

世界中でいま多くの社会人が働きながら勉学にいそしんでいます。化粧ファッション学専攻においても、社会人が働きながら無理なく通学できることを最優先に考え、授業時間帯を平日の夕方以降や土曜日の昼間を中心に配置しています。一部の科目については土日や長期休暇期間などを利用した集中講義形式で授業を展開します。

※本専攻では、6講時:18:20～19:50、7講時:20:00～21:30を中心に授業を開講します。一部科目は、5講時:16:20～17:50にも開講。土曜日は昼間開講となります。

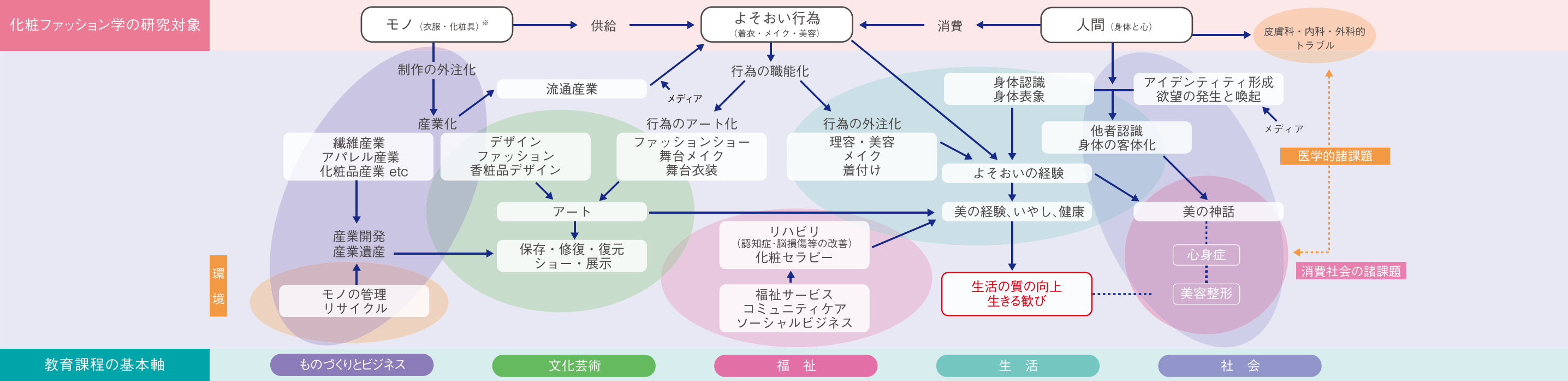
学びを支える長期履修制度

就業、介護、育児などの事情により、本学修士課程における教育・研究に専念することができない方に、[長期履修制度]を設けています。修業年限を3年または4年に延長しても、学費総額は増えない制度になっています。入学時に長期履修を選択した場合、授業料等の納付金は、標準修業年限2年の場合に支払うべき授業料総額を、在籍年数に合わせて分割納入できます。

奨学金制度について

本学には、独自の公募制・推薦制の奨学金制度があります。公募制の「給付奨学生」は、本学の1年次・2年次の大学院生が対象で、健康で人物・学業ともに優秀でありながら、経済的事情により修学が困難と認められた学生に給付されます。また、推薦制の「特別給付奨学生」は、本学2年次の大学院生が対象で、研究に熱意を持ち、学業、人物ともに特に優秀と認められ、専攻長に推薦されたものに給付されます。どちらもその年度に納入すべき授業料の半額相当額で、返還不要となっています。

化粧ファッション学の問題系の広がり



カリキュラムの編成

化粧ファッション学専攻では上図で示すように、モノ、よそおい行為、人間の3つの研究領域を、ものづくりとビジネス・文化芸術・福祉・生活・社会の5分野に分類し、環境、消費社会の諸問題と関連付けて分析、研究できるよう、以下の科目を開講いたします。

●は、1年次配当科目、●は、1・2年次配当科目、●は、2年次配当科目。

共通科目・基幹科目

- 人間科学研究方法論
「生活の質の向上」に資するため、臨床心理学・人間栄養学・化粧ファッション学の知見を検証する。
- 化粧ファッション学特殊講義1
総合的な「化粧ファッション学」と隣接する専門領域との関係を学び、学問としての深化を図る。
- 化粧ファッション学特殊講義2
専攻の全教員、全学生が参加する合同授業。現代社会における化粧ファッション学の役割を議論する。

化粧ファッション学専攻主要科目群(演習科目)

ファッション学科目群

- ファッションと科学演習1・2
衣服材料学(繊維や糸、布の構造や性質)と、衣服整理学(衣服の洗浄や加工、染色)について考究する。
- ファッションと技術演習
主に衣服構成学分野における基本的知識を身につけ実際の作品制作を通して、諸工程を理解させる。
- ファッションと美学演習
世界各地の服飾史や民俗学における知識を共有し、美術館収蔵品や現代の作家の作品を素材に学ぶ。

化粧デザイン学科目群

- 化粧デザインと科学演習1・2
安全な化粧品制作の基礎知識を学び、開発に必要な知見を修得。企画書、試作品を制作する。
- 化粧デザインと技術演習
イクアップ、ヘアメイク、染毛など実技を通し、化粧技術の基本やその効果について研究する。
- 化粧デザインと美学演習
世界各地の化粧など、美学の基礎知識を確認。人はなぜ化粧を行うのか、事例をもとに考える。

身体表象学科目群

- 身体表象と心理演習
認知科学の知見にもとづき、顔や身体認知に関わるプロセスの諸相について研究する。
- 身体表象と解剖学演習
人体各部の器官や組織の名称を知り、美術解剖学の成果を学習。身体内部の可視化について学ぶ。
- 身体表象と社会演習
化粧や服装などの身体表象行為と共同体の規範との関係、個人のアイデンティティ形成との関係について学ぶ。

化粧ファッション学関係科目群

- 化粧ファッションビジネス論
ファッション・ビューティ産業を中心に、商品開発からの事業展開やブランド論、またはビジネスプロセスなどについて考究する。
- ボランティア・非営利ビジネス論
化粧ファッションに関わるセラピー、ボランティア活動や非営利ビジネスについて、そのマネジメントなどを考究する。

特論科目

- ウェルネス持論
装い／粧いが心身に及ぼすポジティブな効果あるいは健康への作用について、科学的知見に基づいて考究する。

- キュレーション特論
ファッションや化粧デザインの分野の作品を知的財産として管理し、将来に役立てる方法を学ぶ。
- メイクアップ特論
舞台やファッションショー、映画やテレビの特殊メイクなど、様々な分野の技術を学ぶ。
- ヘアメイク特論
ヘアメイクの技術とその変遷、再現、新しい技術やシルエットの開発について研究する。
- ファッション特論
近代消費社会のファッション現象、20世紀のクリエイターの足跡から、今後の方向性を考究する。
- パフォーマンス特論
人間の欲望が、身体と身体装飾をよりどころにして、いかに美を実現するのかを実践を通して検証する。
- デザイン特論
デジタルとアナログの二つの観点から、美やデザインに関する知識と技術を修得する。

集中演習科目

- ファッション学研究1～9
化粧ファッション学専攻の各教員の専門領域による指導のもとに、学内外のリソースを活用し、また実作実践などによる検証を通して主題別の個人研究を行い、その方法論を身につける。

一部科目は不開講になる場合があります。

本専攻の各研究教育分野とその内容

◎ファッション学分野

この分野においては、衣服材料学、衣服管理学、衣服構成学、服飾美学の分野における基礎的知識および最新の成果について考究させることで、衣服生産において求められる工学的、技術的、デザインのスキルを学ばせる。また、衣服のリサイクルや環境汚染などの問題もここで学ばせる。

◎化粧デザイン学分野

この分野においては、化粧品科学、化粧品開発、メイクアップ技術、皮膚科学などについて考究させることで、化粧品開発とその製品化、高度なメイクアップ技術、医療面でのトラブルの回避など、化粧と化粧品、化粧品産業において必要とされるハード及びソフト面での高度な知識を学ばせる。

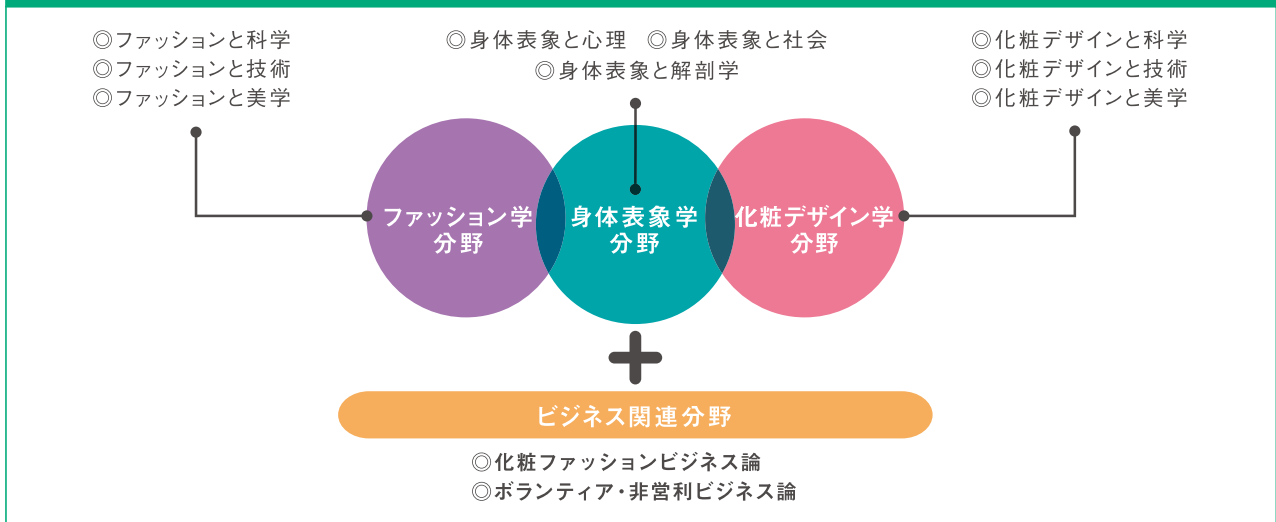
◎身体表象学分野

この分野では、身体認知、化粧の心理学、美術解剖学などの理解を通して身体と心の関係を深く知るとともに、身体社会学の立場からアイデンティティ形成と欲望の問題、身体イメージと身体の客体化、媒介者の役割等の問題を考えさせ、加えて他者存在と身体接触のもたらす福祉の効果などについて考究させる。

◎ビジネス関連分野

ファッションおよびビューティ産業の分野での事業展開やマネジメントを学ばせるとともに、化粧セラピーなどの効果が臨床的に明らかになりつつあることに鑑み、非営利の事業展開やボランティア活動を通して地域の活性化を実現するためのマネジメントを考究させる。

化粧ファッション学の分野



■ 化粧ファッション学専攻の特色

- 化粧研究とファッション研究の高度化をめざす先駆的大学院です。
- ものづくり、ひとづくり、地域づくりを重視する実践型大学院です。
- もういちど学びたい人、研究を深めたい人のための社会人対応大学院です。

■ 化粧ファッション学専攻開設の趣旨

大阪樟蔭女子大学大学院化粧ファッション学専攻は、これまで決して十分とは言えなかった化粧ファッション学の分野の研究者を養成するとともに、従来、日本が得意としてきた繊維、アパレル、化粧品および関連する産業分野の専門職業人を養成し、かつ文化芸術等の分野においても国際的に活躍のできる人材を育てていくことを目指しています。

■ 化粧ファッション学の大学院における発展

化粧ファッション学の可能性は、通常私たちが化粧やファッションといった用語で想像する範囲をはるかに超えて広がっています。化粧ファッション学専攻では、ファッション学、化粧デザイン学、身体表象学の3つの分野（科目群）においてその研究教育を展開しますが、左図のように、本専攻で扱われるテーマは、

ものづくりと ビジネスの分野	文化と芸術の分野	化粧セラピーを含む 福祉分野	生活の質の向上を めざす分野	アイデンティティと 社会の関係	消費と経済に 関わる分野
-------------------	----------	-------------------	-------------------	--------------------	-----------------

などの範疇に分類できるでしょう。

さらには化粧品と皮膚科学、心療内科や環境問題にまでテーマは広がっていきます。すでに化粧や、美容、アパレル分野の職業に従事している社会人の方々には、キャリアアップや職域の拡大、新領域の発見へのチャンスになることは確実です。

神戸ファッション美術館との連携

ファッションをテーマとした日本で初めての公立美術館、『神戸ファッション美術館』との連携のもと、美術館が所蔵する貴重な資料の数々に触れる機会が得られるだけでなく、美術館が持つ多彩なりソースを活用した学びと研究を進めることが可能です。

学芸員資格 も取得可能（女性のみ）

学芸員資格に関する学部科目を、科目等履修生として修得することによって、学芸員資格の取得が可能になります。（詳細はお問い合わせください。）



大阪樟蔭女子大学

大学院人間科学研究科

●化粧ファッション学専攻
●人間栄養学専攻
●臨床心理学専攻

化粧ファッション学専攻

入試概要

	10名（男女共学）
●入学試験実施時期	秋期（9月）と春期（2月）
	出願資格を有する者、もしくは大学を卒業した者と同等以上の学力があると本学大学院により認められる者。 ※後者の出願資格を得るためには、あらかじめ出願資格審査を受ける必要があります。

化粧ファッション学専攻

出願資格及び選抜方法

※入試に関する詳しい情報は必ず「学生募集要項」でご確認ください。

※専修学校・短期大学（外国の専修学校・短期大学を含む）を卒業した者も本学大学院の出願資格審査で資格を認められると受験できます。詳細は学生募集要項を参照してください。

	[対象者] 本学大学院修士課程の出願資格要件を満たす者を対象とする入学試験。
	[選抜方法] 書類審査（研究計画書を含む）、筆記試験（専門試験）、面接試験の成績を総合的に評価して行う。
社会人入学試験	[対象者] 本学大学院修士課程の出願資格要件を満たし、かつ次の1・2のいずれかを満たす者を対象とする入学試験。 1. 学校・官公庁・団体・企業等で、出願時までに2年以上の就業経験があり、2027年4月1日に満24歳以上の者。 2. 教育・福祉・宗教・国際協力・ボランティア・芸術文化・その他何らかの社会的実践活動を、出願時までに2年以上経験した者で、2027年4月1日に満24歳以上の者。
	[選抜方法] 書類審査（研究計画書を含む）、筆記試験（小論文）、面接試験の成績を総合的に評価して行う。
外国人留学生入学試験	[対象者] 本学大学院修士課程の出願資格要件を満たし、かつ、次の1・2のすべてを満たす者を対象とする入学試験。 この区分での志願者は「日本語能力試験N1」または「日本語留学試験」を受験していることが望ましい。 1. 日本国籍を有しない者。 2. 日本において外国人留学生として日本の大学を卒業した者、あるいは日本以外の国の大学を卒業した者。 （いずれの場合も2027年3月末までに卒業予定の者も含む）
	[選抜方法] 書類審査（研究計画書を含む）、筆記試験（日本語小論文）、面接試験の成績を総合的に評価して行う。

化粧ファッション学専攻についてのご相談

進学についての相談やキャンパスの見学については、随時受け付けております。特に社会人入試を検討の方は、事前相談されることを奨励いたします。希望される指導教員との個別面談（対面・オンライン）も可能ですので、お気軽にお問い合わせください。学部生向けオープンキャンパスでもご相談可能です。

個別相談についての問い合わせ先

大阪樟蔭女子大学 入試広報課
TEL:06-6723-8274
Mail:koho@osaka-shoin.ac.jp
https://www.osaka-shoin.ac.jp/gs/

HPはこちら



在学生データ

●在籍者数	5名
●2023年度入学者	1名
●2024年度入学者	0名
●2025年度入学者	1名
●2026年度入学者	3名
●一般	1名
●社会人	1名
●留学生	1名
●内部生	2名
●男性	1名
●女性	4名

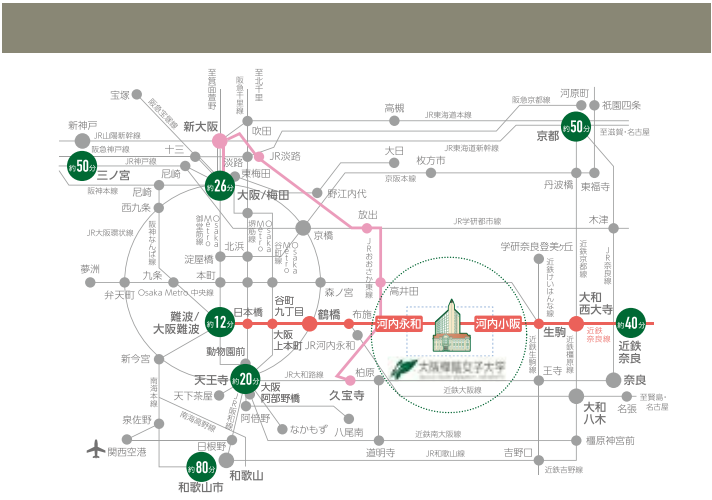


●「鏡のアドバイス ― 観劇用のローブとマント」
鏡の前に立つ二人の女性は、そこに映し出された自らの容姿を観劇に備えて確認しているところであると推察される。この行為はファッション（被服）、化粧、美容を、特定の目的を持ちながら総合的に取り扱う本専攻のイメージと合致し、「鏡」に象徴される客観的な視点は研究を主体とする大学院の理念にも通じる。あわせて、このファッションプレートは専攻発足の2013年からちょうど100年をさかのぼった1913年の作品であること、壁面の色彩に本学のイメージカラーである「緑」が取り入れられていることなどから、専攻開設当時の教員に見いだされ、継続して専攻の広報用パンフレットなどに用いられている。

タイトル: "Le Conseiller des Dames - Robe et Manteau pour le Theatre"
出 展: plate I from Gazette du Bon Ton, Volume 1, No. 5
作 者: George Barbier (French, 1882-1932)
(神戸ファッション美術館蔵)

【Gazette du Bon Ton】(ガゼット・デュ・ボン・トン)
フランスで1912年から25年に出版された高級モード雑誌。副題は「芸術、モード、アクセサリ」となっており、衣服だけではなく、トータルでおしゃれなモダンライフスタイルを提案。挿絵版画には、ボショワール技法を使い、当時人気のイラストレーターがデザインした。

【George Barbier】(ジョルジュ・バルビエ、1882年10月10日-1932年)
20世紀を代表するイラストレーター。フランス生まれ。エコール・デ・ボザールに学んだ後、『ジュルナル・デ・ダーム・エ・デ・モード』や『ガゼット・デュ・ボン・トン』などの挿絵にイラストを提供。舞台衣装や舞台美術にも才能を発揮した。



- 大阪樟蔭女子大学
- 学 芸 学 部 /リベラルアーツ学科 国文学科
言語文化コミュニケーション学科 心理学科
ライフプランニング学科 化粧ファッション学科
 - 教 育 学 部 /子ども教育学科 (2027年4月設置)
 - 健康栄養学部 /健康栄養学科